

おお大勝利

平成 27 年度山東サッカー一部報第 2 号 (4 月 14 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

Y1 開幕戦 日大山形に大敗・・・

4 月 11 日よいよ今季開幕戦、県リーグ開幕戦が行われました。山東の試合会場は米沢市営サッカーフィールド。**Y1 はすべての日程を人工芝で行う別格の扱い**です¹。といっても、昨年も Y2 の聖地山形明正 G²での試合の多かった山東としては、「人工芝で試合ができるとは、やはり Y1 だな」などという感慨は湧かない。少し贅沢に慣れた感があります。山東は Y1 昇格組で、Y1 開始時の暫定順位は 8 位³なので、開幕戦は Y1 暫定 1 位の日大山形と戦うことになる⁴。日大は、昨年インターハイの県予選を制し、県新人も制した言わずと知れた強豪校。**東北新人では、青森山田をも苦しめたとのこと (スコア 1 対 2)**。伝統のパワフルなサッカーは今も健在。思えば、ハイプレス⁵で速攻を武器にする戦術は、現在のモンテのサッカーに通じるところがある。FCバルセロナが隆盛を極め、猫も杓子もパスサッカー=ポゼッションサッカーへの愛好を標榜していた時期にも、日大山形は浮つくことなくしっかり伝統を継承。**私はパスサッカー自体嫌いではないのですが、猫も杓子もパスサッカーという時代の雰囲気は大嫌いでした**ので⁶、2010 年前後の熱狂⁷を経てさらに日大山形

¹ Y1 では、会場として、今年オープンした山形市球技場 (前市陸) と天童第 2 (べにばなスポーツパーク通称ベスパ第 2 運動広場) も利用しますが、白鷹町営東陽の里 G (通称東陽) と米沢市営サッカーフィールド (通称米沢 SF) も数多く使用します。ゆえに、昨年は地区外のリーグ戦は 4 回 (鶴岡 2 回、酒田 2 回) でしたが、今年は 7 回に増えます (米沢 5 回、東陽 2 回)。それだけ出費もありますね・・・。

² 今季山形明正は Y3 で戦いますが、来季は Y2 に復帰することでしょう。ですよね、ベジータパパ (ベジータとは春の関東遠征も行った新入生のあだ名、彼の父は山形明正の監督です)。ただ、山形明正 G を Y2 の聖地などと言うと、再来年以降明正が Y1 に上がる可能性を考慮していないようにも聞こえますので、そう呼ぶのは程々にしておきます。

³ もう一つの昇格組の鶴東は、Y2 A にて稼いだ得失点差で山東に勝り、暫定順位は 7 位 (Y2 A で優勝の鶴東と Y2 B 優勝の山東は偶然にも勝ち点では同点だったのですが、得失点差では鶴東が上でした)。

⁴ ということは、山東は順に暫定 1 位、2 位、3 位・・・というように昨年の成績の良かった相手と順番に当たるとのこと。前期最終節は 7 位の鶴東ということになります。

⁵ 相手陣地深くまで (それをサッカー用語で「高い high 位置まで」と表現します) ボールを奪いに圧力 press をかけに行く、という意味。逆に、いったん低い位置まで下がり、守備陣形を整えてから (それを最近のサッカー用語で「ブロックを作ってから」と言います) ボールを奪うやり方もあります。どのように呼べばいいかわかりませんが、私はリトリート (退却/撤退) という名称を好んでいます。

⁶ 興味をもたれた方は、山東サッカー OB 会 HP の平成 22 年度の所に掲載されている私の選手権観戦記をご覧ください。日本全体で同じサッカーを目指そうとする、没多様性を目指す方向性への疑義を呈しています。

⁷ その熱狂はバルサの活躍、そして 2010 年 W-Cup でのスペインの優勝で頂点を迎えました。ちなみに、私は以上のように天の邪鬼なので、1990 年代後半～2000 年代前半はバルサ好き (特にデラペニャに痺れた) でしたが、2000 年代後半バルサの人気に火が付いてから (というかメッシ登場以来)、バルサ嫌いになりました。現在クラシコがあれば、報道局長とは正反対に、リアル推しです。といっても、ここがややこしいのですが、選手としてはメッシもイニエスタも大好き。

のサッカーへのリスペクトは強まりました。

さて、こうも長い前置きは試合の内容に触れたくないからではないか、と勘繰られかねないのでそろそろ試合の話に戻しましょう。4月11日小雨降る肌寒い中、試合前のアップ開始。試合開始近くなり、**今シーズンも清野OB会名誉会長と後藤報道局長が現れる**。選手がチェックのために一列に並ぶ頃には小雨も止み、絶好のコンディションで試合開始。山東は先発に**1年生カイト**を右サイドハーフで起用。そして3年カツミをFWで、2年カズマを右SBで起用するという昨年にはなかった布陣で臨む。試合が開始されると、最初だけ山東が攻め込みましたが、すぐ山東ゴール前に釘付けになる分厚い攻撃を受ける。**日大の、ガードの外側からでも構わず重いパンチを繰り出すようなパワフルな攻撃を受ける**。クリアがショートし続け、嫌な雰囲気が出る中、アウトサイドで簡単に縦への突破を許し、失点。このシーン、山東右サイドにて相手が右足でキックフェイント気味に縦へとドリブルに来たのですが、これを許さないプレー（**切り返しを狙うプレー**）は守備の基本中の基本。相手が中や後ろへパスするのは状況的に防ぎようがないのだから、そちら方向へのキックフェイントに食いついて、**寄せている肝心の方向である縦方向に突破を許すのは幼稚極まるプレー**。実は、この失点につながる突破の前にも全く同じやり方で突破を許しており、仮に切り返しを狙う守備が身につけていなかったとしても、その守備ではいけないと気付くべき（そしてそれを呼び掛けあうべき）。一応口酸っぱく指導しているつもりですが、定着には全く至っていなかったことを反省させられる⁸。その後一方的に押される展開をしばらく堪えましたが、**山東両SBのアシストにより日大FWがGKと1対1**。そして失点。前半0対3。不思議とその二つのミスに怒りは覚えず。だって、その両SBのプレー、よく見かける彼らのプレーです。そういうミスをしかねないとわかりつつ、それ以外の長所を評価しての起用なのです。で、結局確か山東のシュート1本の前半。**何もさせてもらえなかった**、というのが正直な感想。

そして後半も基本的に同じ。山東はパスもアバウトだし、パスの受け手も全くキープできずすぐ潰される。**競り合いでも、どうせ負けるだろうとばかりに逃げ腰の選手も見受けられる**。そんなハートのない山東の選手を見るのは、とても情けない。**下手でも気持ちでカバーするところがあっての「粘りの山東」だと思ってきましたが、後半もやられたい放題で3失点。結局0対6の大敗**。前半よりも「山東の時間」はありましたが、**結局潰されるのを恐れてビビってボールを持っている／持たされている**印象あり。人はいるが団子になっているだけで全然シュートまで至らない「攻撃」でした。

正直日大が1枚上手どころか3枚上手でした。完敗です⁹。

ですが、次節はすぐやってきます。同じく山形市の強豪東海大山形が相手です。一応4月12日の練習では、前日の暗鬱した雰囲気を払拭して、選手は伸び伸びとトレーニングしていました。多少の光明は感じましたよ！ 応援よろしくお願いします。

4月18日（土）Y1第2節 東海大山形戦 @天童第2 13:00~

⁸ ちなみに、失点の後にも、まったく同じやり方で突破を許していました。学習能力がないとはまさにこのこと！ ピッチ内で起こった失敗から学べなければ、当然ピッチ内での修正なんてできませんよね。というか、失敗の原因の分析がそもそもできていないことが根本問題です。

⁹ ただ、その日大と県総体のエイトの山では当たらなきゃならない（日大第1シード、山東第8シードなので）。そこまで（3回戦まで）行くのも大切なのであまり日大日大と言いたくないですが、日大を倒さなければ準決勝にすら行けないのが現実です。